

第56回 運動会

幼稚園



年少



年少さんは初めての運動会。ドキドキ、わくわくがとても伝わってきました。「はしるのだいすき」の歌唱、まねっこ体操、かけっこをしました。かけっこではゴールで待つお母さん、お父さんに向かって元気よく走っていく姿が印象的でした。

年中



年中さんはダンス、玉入れ、かけっこをしました。玉入れではクラスごとに数を競い合い、一番多く入ったチームは、「やったー！」とみんなで大喜び。年少さんの時よりもおにいさん、おねえさんになった姿が、とても輝いていました。

年長



年長さんは最後の運動会。「今日は頑張るぞ！」という思いが表情から伝わってきました。ダンス、体操、リレーをしました。ダンスや体操はとても素敵でした。リレーではみんな真剣な表情で「一位になるぞ！」という気持ちをもって、一致団結していました。頑張ったみんなに拍手を送りたいです。

目次

- 【1面】幼稚園
- 【2面】小学校
- 【3面】中学校
- 【4面】高等専修学校

九月十九日に第五十六回運動会が行われました。コロナウイルス感染予防対策のため五月に予定していた運動会は九月に延期し、学年ごとに三分割して行いました。保護者の皆様のお力添えがあったからこそ楽しい運動会でした。ご協力ありがとうございました。今後の行事についても、感染症予防に留意しながら、子供たちに楽しい思い出を残していけるよう、取り組んでいきたいと思っております。

小学校

届け、アフリカの笑顔 ひまわりの種

私たちは2009年4月から2019年までの十一年間スマイルアフリカプロジェクトの活動をしてきました。スマイルアフリカプロジェクトとは、「子どもたちの笑顔のシューズを贈ろう」を合言葉に、子どもたちのシューズが合わなくなったシューズを「回収」し、裸足や裸足に近い状態での生活を余儀なくされている途上国の子どもたちにシューズを「寄贈」するプロジェクトです。日本に住む私たちの暮らしの中には、子どもたちが成長していく過程でシューズが合わなくなり、まだまだ使うことができるのに、捨てられてしまう運命にあるシューズがたくさんあります。このシューズを回収することによって、モノを大切にすることを大切にすると環境問題への喚起を呼びかけていきます。

また、私たちはお礼にヒマワリの種をもらってきました。なぜひまわりの種をもらったのか知っていますか？それは、アフリカの子どもたちが靴をもらってうれいという気持ちと笑顔をひまわりの種にこめておくってくれているからです。靴の回収を手伝ったことのある人はおれいがもらえて嬉しかったり、頑張ったかいがあったなと感じたりする思いが強いのと思います。会ったことのない人同士でも心が通えるような素敵なプロジェクトですね。いつも太陽に向かって生きる前向きなひまわりを見て元気を出し、そこから出た種が世界中に広がって、また笑顔で元気が出るひまわりを咲かせる。そんな幸せの連鎖を大切にしていきたいと思います。



総回収数

武蔵野東小学校は2014年から六年間にわたってプロジェクトに協力していただきました					
武蔵野東小学校が回収したシューズの数はなんと合計で2,592足にもなりました。					
2014年	505足	2015年	475足	2016年	472足
2017年	451足	2018年	390足	2019年	299足
プロジェクトとしては目標としていた10万足のシューズを回収できたことで終了しました。					



なぜスマイルアフリカを始めたのか

総合の時間に行った「国際理解教室」の中でアフリカの国を取り上げたときに、貧困で靴も買えないような生活環境があることを知った時、日本に住む自分たちにできることはないかを考えました。そこで履けなくなった靴をアフリカに送ろうという意見があり、すでにそのような活動をしていたスマイルアフリカプロジェクトに参加することにしました。

実際にやってみてどのように感じたか

学校に履けなくなった靴をもってこることで、海を渡って遠く離れたアフリカの子どもたちがその靴を履いて笑顔で走り回れることができるプロジェクトは、小学生でもできる社会貢献活動であると思えました。

なぜプロジェクトが終了となったのか

もともとスマイルアフリカプロジェクトは、十万足の靴をアフリカに届ける事を目的として始められたプロジェクトで、十一年間かけて目標の十万足を回収できたためプロジェクトが終了したそうです。

友愛会会長 湯橋 竜月
副会長 片平 心海
小林 大祐

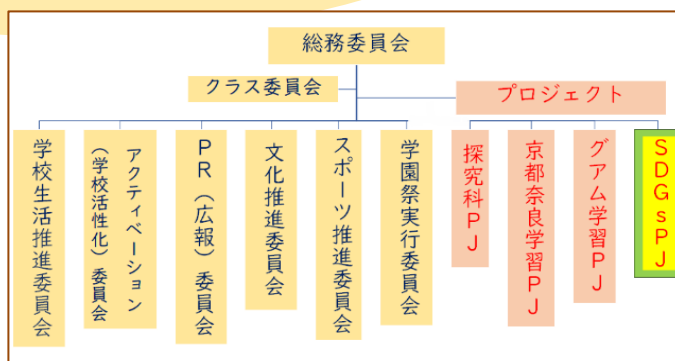
友愛会大改編で th!!

中学校では今年度、学校生活の柱である友愛会の改編を行いました。昨年度までのものとは大幅に変わり、最初は少し戸惑い等ありましたが、1学期の終わりに発足して以来、どの委員会も一人一人が責任感を持ち、協力し合って活動しています。まず、一番大きな変化として自分の第一希望の委員会に必ず入れるようになりました。また、CDE 組の生徒から構成される委員会をはじめ、数や種類、役割などが従来と大きく異なり、具体的な活動内容を生徒が話し合っただけで決めるなど、これまで以上に生徒主体の委員会となっています。

また、今回は委員会とは別にプロジェクトが設立されました。その筆頭が SDGsプロジェクトです。これからも生徒が運営する価値のある組織として友愛会が発展していけるよう、生徒全員で友愛会を盛り上げていきます!



(写真:友愛会発足会の様子)



(新・友愛会組織図)

Change and challenge

今年、SDGsプロジェクトというものが新たに結成され、現在 30 名程が参加しています。9月からスタートしたばかりですが、身の回りのことから積極的に活動し、広い視野を持って取り組んでいきたいと思ひます。不平等や差別、環境問題など、完全に改善することは難しい課題が沢山あります。私達はその課題と真剣に向き合い、改善するための第一歩を踏み出していきたいです。そして、SDGsプロジェクトの活動を校外にもどんどん発信していきます。皆が理想とする世界を少しずつでも形作ってきたいです!



※SDGs (エスディー・ジーズ)とは…持続可能な開発目標。

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載されている2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

執筆担当:総務委員(会長:松栄颯人、副会長:本田梨紗)

長期休業中 徹底したこと TOP 3

1

手洗い・うがい

風邪もひかず、以前よりも体が強くなりました。

2

適度な運動

ビデオに合わせてエアロビする毎日でした。

3

三度の食事

料理に興味わき、自分でも料理をつくるきっかけとなりました。

その他

けん玉

「宇宙遊泳」ができるようになりました。

読書

読書の秋！
月に 10 冊も読んだ人も・・・。

タイ料理

朝昼晩、タイ料理！
はまってしまいました。

絵を描く

こんな絵を描きたかったなあ。

リモート授業

の感想



入学はしたものの、クラスメイトの顔も名前もわからない状態で画面上だけの授業になってしまいましたが、新しい友達と対面することができ、とてもうれしかったです。ガチガチに緊張していたみんなの顔が今でも忘れられません（笑）
1年 S.T さん

学校が休校になり、勉強などの不安があったためオンライン授業の発信はとてもありがたかったです。直接質問ができないのは難点でしたが、授業自体はわかりやすく、繰り返し何度もビデオを見ました。
2年 I.Y さん

新型コロナウイルス対策としてリモート授業がスタートしたものの、最初は不慣れで分からないことが多く、とても不安でした。でも何回か体験していくうちに慣れてきて、こんな形でも授業ができることに感謝し、「ありがたいな」と思うようになりました。
3年 M.N くん

自粛期間中は外に出る機会もなかったので、久しぶりにクラスメイトと顔を合わせることができてとても嬉しかったです。登校しないということは、服装が自由。かえって服装選びに時間がかかってしまい、地獄でした。
3年 K.B さん

～ 編集後記 ～

皆さんこんにちは。今回も多くの方々の協力のおかげで新聞を完成することができました。心より感謝申し上げます。友愛のつばさは今回で61号を迎えました。ここまで長く続いたのも皆さんの協力のおかげです。この先もこの学園の繋がりを途切れることのないよう後輩にしっかりとバトンタッチをして未来につなげていきます。これからも応援のほどをよろしくお願いします。

(友愛会会長 高等専修学校 3年 笹沼 乙萌)